



大西脳神経外科病院だより 第36号

ぶれいん

発行日：平成30年10月吉日

発行人：学術図書委員会

大西脳神経外科病院

編集責任者：吉野 孝広

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

病院と組織力

大西脳神経外科病院 理事長・院長
大西 英之

「サッカーW杯2018 ロシア大会」

日本代表は16年ぶりに予選リーグ突破、決勝リーグに進みました。残念ながらトーナメントで敗退しましたが、日本代表のチームワークの良さが見られた大会だったと思います。また、試合運びや監督の采配に対し、賛否両論がありました。組織において「トップ」というのは、常に批判の対象となり、時として決断力に迫られます。

病院に置き換えると「経営不振＝トップの責任」が問われます。今回、日本代表は前任ハリル氏から西野氏に交代して約2カ月余り。結果を求められる重圧もありましたが、各選手の自覚とチームの結束が成しえた結果だと思えます。医療機関においても、チーム医療と表現される様に、各自が「最良の医療を以て、患者さんを良くする」という共通意識を持って取り組まなければ上手に機能しません。

「和を以て貴しとなす」



日本は、古来から「日本人＝チームワークに優れている人種」だと言われています。寛容な気持ちをもって楽しく仕事を進めて頂きたいと思えます。



「勝って兜の緒を締めよ」

「組織統治（ガバナンス）」

マスメディアによって「日本スポーツ界における様々な問題」が、数多く報道されました。

日大アメフト部監督・コーチによる組織的な問題もみ消しの画策。一方で、危険行為（タックル）をした選手は、報道陣を前に誠心誠意を込めて謝罪をした事で大きな波紋を呼びました。このような時、「組織」としては、どのように対応すべきかを考えさせられました。

日本女子体操協会パワハラ問題や公的機関の体制見直し、ボクシング連盟会長の問題、日本女子レスリング界を揺るがしたパワハラ問題、早稲田大学オーケストラ部、日本相撲協会における八百長問題や過去の暴行・死亡事件など、問題が絶えません。

日本企業においても、神戸製鋼の品質偽装、自動車産業界におけるずさんな品質管理の露呈。日本国内でも有数の超エリート企業である東芝がおかしくなっていました。

本稿初めにも記しましたが「組織のトップ」が適切に対応していないと、最終的に大変なことになる可能性があります。神戸製鋼の品質偽装事件が今後どのようになるのかわかりません。世界中から訴訟を起こされるとなると、神戸製鋼の経営は傾くかもしれません。

一つの企業なり、病院なり、組織が社会から信用を得るためには並々ならぬ努力と何年もの年月が合わさって「社会、一般の皆さま」から信頼・信用を得られるようになります。一方で、ちょっとしたトップの判断ミスで信用を失うという事は「一瞬」にして起こってしまいます。

戦国時代の言葉：戦（いくさ）に勝ったからといって安心しては駄目だ、兜の緒を締めて改めて気を引き締めなさい、という意味です。

脳神経外科という「病院組織」で職務に就くには、常にその様な心構えが必要です。患者さんの生命を左右するという事を念頭に置き、あらゆる職種・職員が自覚しないと「思わぬ落とし穴」になりかねません。

回復期病棟開設に伴い、職員数も3年前との比較で70名以上増加しました。

一挙に増加したため、今一度「お互いのコミュニケーション、縦の報連相」を密にして頂きたいです。また「機能的・効率的なチーム医療実現」と安全性が高く信頼される病院を目指し、心を引き締めて頑張りたいと思います。

「度重なる天災（豪雨、酷暑、地震）」

「7月：西日本豪雨 8月：酷暑、台風、地震」
数々の災害が日本を襲いました。被災地の一日も早い復興を願います。また、地球温暖化の影響で、非常に天候の変化（豪雨・酷暑）が年々酷く激しくなっているように思えます。酷暑による影響で、多数の「熱中症」被害が報告されました。7月には前例を見ない「東から西へ列島横断する台風」も上陸しました。豪雨にほど近い時期に発生した「大阪、北海道地震」も記憶に新しいかと思えます。コンビニ・ショッピングセンターでは、災害時早々に「トイレトペーパー、飲料水、保存の効くカップ麺等」が商品棚から消えます。各家庭に約3日分の食料・水分（ペットボトルに水道水）」の備蓄が、万一の災害時非常に役立つことでしょう。特に地震大国である日本。いつどこで発生しても不思議ではありませんので、備えが肝要です。



第21回 日本臨床脳神経外科学会 in 金沢



7月14日～15日、石川県金沢市で「第21回日本臨床脳神経外科学会」が開催されました。学会期間中、脳神経外科に携わる多くの医療従事者が参加し、当院からは16題の発表を行いました。（会場内撮影・録画が禁止であったため、写真素材がございません。ご理解のほどお願いします。）

「大西・函館脳神経外科病院 合同懇親会」も盛大に行われました。異なる地域の脳神経外科病院が一同に介する場は、大変貴重な交流会となりました。

会場：石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル、日航ホテル金沢



♪大西・函館 ☆コラボレーション☆

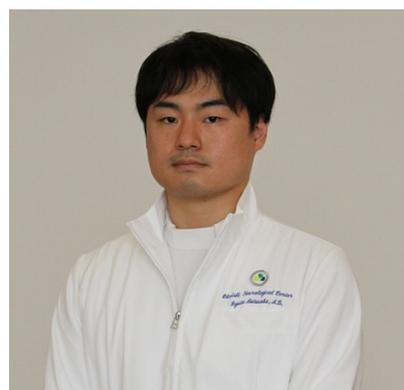


New Face Dr.

2018年7月から当院へ赴任・医務部配属となりました松岡龍太と申します。これまで医師として、奈良県・大阪府の病院で経験を積んで参りました。

今回、兵庫県は初めてとなります。神戸・明石を中心としたこの地域は、皆様の人柄も良く景色も綺麗（特に病院から望める明石海峡方面）で、驚いています。

「海の幸、神戸牛」をはじめとした魅力的な食文化を含め、今回の配属を嬉しく思っております。大西脳神経外科病院は「手術数・症例数」が多いだけでなく、医療の質の高さに驚いています。勤務開始から、まだ少しの時間しか経過していませんが、既に様々な事を学ばせていただいております。まだまだ一人前とは言えませんが、少しでも貢献できるように日々研鑽してまいります。宜しくお願いします。





バーベキュー大会 in 舞子ビラ



7月28日(土)天気予報史上前例を見ない、東から西へ列島を横断した「逆向き台風」に襲われました。全国各地が災害対策に追われる中、舞子ビラBBQ会場も屋内開催となりました。(写真:台風12号)
♪40名を超える大勢の職員・家族で賑わい、ひと夏の思い出作りと共に楽しく食事が出来ました♪



オープンホスピタル2018

8月18日(土)夏休み期間恒例の「オープンホスピタル」が開催され、盛況のうちに幕を下ろせました。数多くの医療業務(顕微鏡手術の縫合・挿管、調剤、生理機能検査、MRI・超音波などの画像検査等)を体験して頂きました。今年は昨年を遥かに上回る69名(2017年:54名)の参加者でしたが、大きなトラブルもなく、滞りない運営が出来ました。ひとえに、休日にも関わらず尽力して頂いた実行委員、準備期間を支えて頂いた関係者メンバーの方々のお陰に他なりません。

この場を借りて感謝申し上げます。(オープンホスピタル委員長:吉野孝広)



入職から半年が経過…

医療技術部 リハビリテーション科
理学療法士 白金 葵



私は、理学療法士として1年目で経験が浅いですが、仕事にやりがいを感じています。毎日が充実し、内容の濃い「アッ」という間の半年間でした。担当させていただく患者様が、毎日少しでも良くなっている事や、元気に退院される事が仕事の意欲に繋がっています。しかし、病状が悪化してしまう方や、中には麻痺が進行してしまう方もいらっしゃいます。その中で、症候に合わせて「治療・訓練」を行う必要があります。今まで学校で習ってきた机上の知識だけでは対応できません。当科の先輩方、他職種（医師、看護師、臨床検査技師など）スタッフに相談する機会にも恵まれ、非常に充実した学習・技術向上の日々を過ごさせて頂いています。常に研鑽と向上心を忘れず患者様への治療と自身の学習機会に感謝し、理学療法技術の向上に努めてまいります。



看護部 手術室・外来
看護師 橋本 昭太

私事ではございますが、以前、車産業界で働いており、社会人としては経験があります。病院勤務、特に手術室・外来勤務は、毎日がとても早く過ぎ「新しい発見・未体験」の連続です。手術業務は、普段の生活とは全く違う世界なのでとても緊張します。それでも手術が無事終わり、患者様が退室されると嬉しく思います。経験の浅い私よりもはるかに忙しい中、先輩方から業務の基礎から丁寧なご指導を受けています。出来る事を増やし、任せられるような立場を目標に、医療チームの一員としてさらに貢献できるよう頑張りたいと思います。知識・技術共に磨き足りない事ばかりですが、日々の学習を大切に、先輩方から仕事を任せただけできるよう精進してまいります。

目標に向けた「準備」

多くの著名人・有名スポーツ選手・実業家が「準備」を重要視しています。中でも、W杯日本代表選手として活躍した「本田圭佑選手」がいます。

彼はインタビューで「良い準備をして試合に臨みたい」と表現していました。W杯1966年以降の大会においてW杯3大会でゴール&アシストを決めた選手は、「ベッカム、ロッベン…」に次ぎ、本田選手含め6名だけだそうです。

「有言実行」する事で、目的意識の明確化と同時に自分自身へのポジティブなプレッシャーを与えている、とも語っていました。彼自身の「良い準備」の積み重ねが実り、「良い結果」に繋がったように感じます。

本田圭佑選手	W杯での戦績	2010年	アフリカ大会：4試合2ゴール1アシスト
		2014年	ブラジル大会：3試合1ゴール1アシスト
		2018年	ロシア大会：2試合1ゴール1アシスト

「段取り八分、仕事二分」という言葉があります。

目標へ向けた準備が万端に整っているのであれば「全体の80%程度は、仕事が終わっている」とも言えるでしょう。当院「新入職者対象インソース研修会：報連相だね」は聞いた事のある職員がどうかもしれません。「だ = 段取り、準備」の重要性を教えて頂いています。

身近な物で「TV、パソコン、スマホ」には「スタンバイモード」があります。ボタンを触ったらすぐに起動できるように「準備OK」な状態を指します。いざ仕事を始める時に「材料が無い、道具が無い、作業方法・手順が分からない」といった経験はありませんか？ 仕事の準備不足、始業点検・確認手順不足…「仕事の段取りが悪い、準備不足」の典型例です。

日常生活、災害対策、スポーツにおけるフィジカル・メンタル面、仕事 …「準備」

職場・組織は、個人の集合体です。

「各個人の準備・段取り」が集約され、組織本体の一連の動きに反映されます。

特に、医療（治療・検査など）に関しては「段取り・準備不足」は、患者さんに直結します。

医療・病院組織におけるスタッフの教育も「準備・段取り」の一部かもしれません。

各個人の目標に合わせた「準備」を考えるのも自己研鑽になるのでは、と考えます。

編集後記

早いもので、平成最後の年度も半年を残すこととなりました。

とても災害の多い半期だった印象です。

冬季にかけて、風邪・インフルエンザが流行る事でしょう。

体力面、医療材料面（マスク、うがい薬など）の備えを今一度確認してみても、いかがでしょうか。

今回、執筆等ご協力頂いた皆様に御礼申し上げます。（担当：細江）

